

◆ 平成30年度活動報告シート ◆

団体名：未来遺産・見沼たんぼプロジェクト推進委員会

21A-16

代表者：代表 新井一裕

URL : <http://minuma-miraiisan.jp/>

1. 活動が必要とされた状況

見沼たんぼ地域での土地利用の中心である農業が、「人と環境にやさしい豊かな産業」として存続し、発展していけるように、首都近郊である利点を活かしながら「農業生産者等と都市住民・行政・公的団体との連携・協力と農業者への支援関係を広げ、強めていく活動」を推進することが、この地域を未来遺産として存続させていくためには不可欠です。

このため、27年度に開催した「人と環境にやさしい都市農業」の振興方策などについての学習・研究交流活動「5回連続のシンポジウム」を踏まえて、28・29・30年度と見沼たんぼ地域の地産地消型農業の応援連携・季刊誌「見沼旬彩」の発行に取り組んでいます。



2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

①平成28年度から「見沼旬彩」の発行、1,000部

（3箇所の直売所・直売コーナーの紹介、7軒の直売農家さんの紹介、2つの見沼の食材や料理の紹介、4件の農業イベントや人と環境にやさしい農業の講演会などのお知らせ、地図での場所の紹介など）

②平成29年 6月 夏号、9月 秋号、12月 冬号の発行

③平成30年 4月 春号、6月 夏号、9月 秋号、12月 冬号



3. 活動の成果

①持続的な見沼農業の応援連携季刊誌、「見沼旬彩」の定期的な発行

により、農業者、市民団体、行政機関などとの応援・連携の機運が更に高まってきています。

②「見沼旬彩」の取材活動を通じて、個々の直売所や農家さん及び見沼産の農産物を使用したレストランなどとの交流と連携関係が深まりつつあります。

③年に4回ほど開催している「人と環境にやさしい都市農業」の研究・講演会活動を通じて、見沼たんぼ地域での「人と環境にやさしい都市農業」振興の方向性・可能性がしっかりと感じられてきました。

このような中で、直売型野菜生産活動の展開が進みつつあり、見沼たんぼ区域での「耕作放棄地・荒地」の面積も大きく減少しつつあります。

4. 今後に残された課題

①見沼たんぼ地域での、地産地消型の「人と環境にやさしい都市農業の振興」の持続的な推進に向けて、観光農業としての振興も展望しながら、見沼農業の応援連携季刊誌「見沼旬彩」の持続的な発行が必要です。

②今後、農業者と市民団体との「連携活動」を基礎に、低農薬・低科学肥料での「エコロジカルな環境にやさしい農法」の普及・拡大など、更なる研究と連携が求められています。